

平成28年8月25日(木)

老球の細道261

## 真似る、真似ぶ(まねぶ)、学ぶ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

毎月「25日」はバスケットボールの月刊誌『月刊バスケットボール』の発売日である。日本国内のあらゆるカテゴリーの情報だけにとどまらず、NBAやヨーロッパバスケットボールの情報も満載されている。私は創刊号から隔から隔まで読むように努めている。

ある号で現在注目のプレーヤー2名のインタビュー記事があった。「オールスター・プレーヤーになるために、今までしてきた努力は？」という質問に次のように答えた。

ポートランド・ブレイザーズのダミアン・リラードは「学生時代から、デリック・ローズ(ブルズ)、ラッセル・ウエストブルック(サンダー)、トニー・パーカー(スパース)、デロン・ウィリアムス(ネッツ)など、優れたポイントガードのプレーをDVDに録画して何度も見て研究した。自分が同じプレーをするところをイメージしながら彼らのプレーを見たことは、オールスターに出られるようになったことの大きな要因の一つだよ」。

また、ゴールデンステイト・ウオーリアーズのハリソン・バーンズは、「ノースカロライナ大学の大先輩であるマイケル・ジョーダンについて、僕は全盛期はそれほど見ていない。でも、彼のプレイはDVDやYOU TUBEで数えきれないくらいの回数を見まくって参考にしたよ」。

やはり、その世界の超一流プレイヤーは、聞いて見て学び、真似て、考えることによって成長する。上手になるためには、なんでも聞いてやろう、見てやろう、やってやろうという貪欲な精神が必要なのは常識である。「これだ」と自分が惚れ込んだトッププレイヤーのプレイを良く見て盗み、そのプレイをイメージしながら練習することが上達への近道である。もちろんプレイスタイルだけではなく、トッププレイヤーになるための努力の足跡、心の持ち方なども十分に真似する価値がある。

無から有は生じない。新しいものを創り出すためには模倣からスタートすることが基本である。私もチームを創るときはこの原則にしたがってきた。喜多方女子高時代は当時の日本チャンピオン「共同石油(現JX)」、会津高校時代はNCAAの「ケンタッキー大学」、「UCLA」、「ノースカロライナ大学」、坂下高校時代は「シラキュース大学」のプレイスタイルを大いに真似させてもらった。坂下高校のオレンジのユニフォームもシラキュース大学の色を真似たものである。当時県内ではその色のユニフォームは皆無だったので弱かった時は恥ずかしかった。オレンジの色が似あうようになるとともに強くなっていった。そして真似するチームが現れてきた。

ものの本によると、「学ぶ」とは、教えを受けて知識や技術を身に付けることで、もとの語源は「まねぶ」からきており、その「まねぶ」は「まねる(真似る)」から生まれたと言われている。要するに、学ぶことは真似することである。

スポーツ、芸術、学問の天才達も皆例外なく最初は誰かの物真似から始まり、次第に自分なりの個性をアレンジしながら自分スタイルを創りあげている。物まね歌合戦では、物まね歌手が本物を凌駕してしまうこともある。真似することのできない人は自己流におお入り、伸び悩みで終わってしまうこともよくある話である。

賢者は愚者からも大いに学び、真似るが、愚者は賢者から何も学ばず、真似しない。